

インドネシア・アチェの地震、支援活動へ。

名古屋学院大学では、2016年12月7日(水)にインドネシア・スマトラ島北部アチェ州でマグニチュード6.5の地震が発生したのを受けて、12月14日(水)～12月26日(月)の期間(土日を除く)、本学曙館1階にて、国際文化学部の学生を中心に募金活動を行っています。現在、2名の学生が、本学協定校であるインドネシア共和国アチェ州の私立アルムスリム大学に留学しており、地震発生後、現地のNGO団体「Jari Aceh」が行っている支援活動に協力しています。集まった募金は、NGO団体「Jari Aceh」と本学学生が現地支援活動に活用します。

【経緯】

本学では、2015年12月にインドネシア共和国アチェ州の私立アルムスリム大学と共同研究や学生交換など包括的な学術交流協定を締結しました。インドネシアの大学との協定は初めてで、この協定により本学の海外協定校は85校となりました。アルムスリム大学はアチェ州ビルン県唯一の大学で、農学部、教育学部、経済学部、コミュニケーション学部、社会政治学部、そして短大に助産学部を有する総合大学です。1929年に設立、2003年に大学化されました。現在、2名の学生が留学しており、12月7日(水)にインドネシア・スマトラ島北部アチェ州でマグニチュード6.5の地震発生後、現地のNGO団体と協力し支援活動を行っています。

【現状】

地震のあった翌日の12月8日(木)、留学中の本学学生2人はNGO団体「Jari Aceh」とピディ・ジャヤ県の被災地を訪れ、被災状況と被災者のニーズ調査を行いました。12月12日(月)、8日に行ったニーズ調査をもとに急いで支援が必要とされている場所に支援物資を届けるため、再びNGO団体「Jari Aceh」と共にピディ・ジャヤ県を訪れ、おむつ、ベビーウェア(上下、靴下、手袋)、ミルク、ユーカリ油、ベビーパウダー、生理用品、女性用下着、石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉、ビスケットなど、女性や赤ん坊のための支援(計1127万4000ルピア)を届けました。支援物資は、被災者1人ずつ渡せるよう袋に詰め、ムルドゥ郡トゥピン・プラホ村で6袋、ポロ村で3袋、トゥリガデン郡ムチャット・パンワ村で29袋、メ・パンワ村で13袋を配りました。

12日の支援活動で、パンテ・ラジャ郡ロッ・プウク村、トゥリンガデン郡タンポイ村に、支援物資が届いていないと判明。幹線道路から離れていたたり、道路の破損が深刻であったり、支援の届きづらい地域に、絶対的に不足している女性や乳幼児のための支援を届けたいと考えています。



【現地支援活動の様子】
メ・パンワ村にて (2016.12.12)

<インドネシア・アチェの地震、支援活動へ。>

○開催日時：12月14日(水)～12月26日(月)の期間(土日を除く)

朝/8時30分～9時10分、昼/12時25分～13時20分

○開催場所：名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎曙館正面入り口または食堂前